

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念がかかげられており、見やすい位置に掲示している。	○	地域密着型サービスについて理解し、全職員で取組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、ホームが目指すものを理解し、取り組んでいる。	○	全職員が理解し日々取り組んでいけるように、朝の申し送り時、復晶していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・玄関を入れて正面に理念を提示している。利用契約時、利用者、家族に説明している。 ・2ヶ月に1回のホームだよりにより必ず理念を掲載して、地域の方々にもだより配布している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・ホーム周辺の散歩に出かけたときは、利用者職員共に地域の方にあいさつをしている。 ・町内の行事になるべく参加するようにしている。(町内ゴミ拾い、小旅行等) ・実習生、ボランティア、オンブズマン導入し、コミュニケーションを図っている。(小学生、保育園、高校生含む) ・年に1回位、町内の老人クラブの方々を後と詰めて、事業所の説明をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価、外部評価を玄関に提示しており、評価内容を把握できるようにしている。 ・また自己評価は一部の職員ではあるが、取り組んで、それをもとに改善に努めている。	○ 職員全員で自己評価を取り組んでいきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は2ヶ月に1回の会議を行っていて、参加できる方にはなるべく参加してもらえよう案内をだしている。外部評価の結果報告はしているが、事故評価については説明していない。皆さんの意見を参考にサービス向上に努めている。	○ 自己評価の結果も公表し説明していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームだよりの配布、推進会議時、市、社協、民生委員等と話し合いをし、情報交換状況報告をしている。	○ 市町村に、外部評価の結果報告をしていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・必要な人には活用できるよう支援しているが全職員が理解しているわけではない。 ・外部研修には参加するようにしている。	○ 内部研修を通し全職員が理解できるようにしていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加をし、職員会議での研修報告をし、職員全員で理解し防止に努めている。	○ 発見した場合の対応方法、報告の取り決めがないので、報告書等を作成していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は運営規定、重要事項を十分に説明し、疑問等を聞きお互いに納得、理解できるようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からのコミュニケーションから利用者の不満等聞きだせることはあるが、外部者へ表せる機会は設けていない。オンブズマンの導入はしている。(月1程度)	○ 地域の方々との交流を図りながら、不滿意見を話せる機会を作っていきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・月はじめの請求時に手紙で近況報告、小遣帳のコピーを同封している。 ・面会時の記録の公表、サインをしてもらっている。	○ ・領収書は全てホームで管理しているので、見直していきたい。 ・職員の異動等は、面会、交流会等で報告しているが、その都度報告していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情は面会の際話されているが、窓口はない。 意見箱は設置している。 家族からの要望等は会議で話し合い検討している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れの決定は、介護支援専門員、看護師が決定している。 運営の進行は支障のある時、職員で話し合い決定している。	○ 職員の意見も取り入れて決定していきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は常に3人体制で、夜間の対応も申し送りを確実にしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は利用者に合うような人員を配置できるように運営者、管理者、職員と話し合い、引継ぎもを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料がきた際、その内容により受けられている。研修後に復命書として提出し会議で報告している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の研修や勉強会に参加している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員それぞれが休憩場所を確保している。	○	悩みやストレスを聞けるような雰囲気づくりをしていきたい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員との会話、現場の状況を把握している。 ・年に2回の健康診断を行っている。 ・就業規則があり、それにしがいが守られている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用契約前には、本人、家族の意見を聞きニーズを把握できるように話し合いをしている。 ・家族との信頼関係を築けるよう、努力はしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談内容をしっかりと受けとめ、対応できるところは対応し、すぐに対応できない場合は話し合っている。 ・必要に応じて他のサービスを活用している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、利用者の希望を尊重し、家族の要望も取り入れながら支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を把握し、生活の中で尊重できるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え、家族からも情報をもらい、話し合いをし支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者にとっての家族への思い等を把握できるようコミュニケーションを図っている。 ・交流会等行い、毎年増えている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所等は、全てではないが把握し、希望があった時は、出掛けている。	○	状況に応じて知人との電話連絡や手紙のやりとりができるようコミュニケーションを通してつなげていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の相性等考慮し、座席の配置をしたり、レク等でも協力し合えるよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後はほとんど関わりを持っていない。	○	退所時等に相談に応じられることを示していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の思い等把握できるよう、良く話せる職員で探るなどしている。また全職員で観察している。 ・家族からの情報収集をしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中から情報を集めたりしているが、引きだせないときは、家族に聞ける範囲できいている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日の観察、他職員からの情報を得ている。 ・チェック表等の利用し少しずつでも把握できるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者、家族、医師等から情報収集し、アセスメントし、介護計画を立てている。 ・職員会議からも反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を設定し介護計画を立てているが、状況に応じて介護計画の作成を見直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に毎日の生活状況を記録し、それにもとづき会議等で見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの医療機関の受診や、外出支援は行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・図書館等の活用はしている。 ・地域のボランティアはたまにはあるが、きてもらっている。交番にはだよりを配布している。避難訓練等で消防と連携している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	民間のサービスは利用している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護支援専門員の月1回のケア会議に参加し、情報交換している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>症状の程度に合わせ、精神科の受診も勧めている。</p>	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・看護師1名配属し、24時間連絡をとれる体制にしている。</p> <p>・主治医を確保し、情報交換をしている。</p>	
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>看護師、他職員、医療機関との情報交換を密に行い、家族との話し合いも行いその後の支援体制を整えている。</p>	
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>方針は明確にしていないが、重度化の利用者に対しては家族と医療機関との話し合いをして、職員全員で共有している。</p>	<p>○ 利用者の意思を確認に尊重していきたい。</p>
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>対応はしていないが、一部対象者には準備をしている。</p>	<p>○ 対応していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は環境の変化による利用者の思いは把握している。 ・家族を含め、関係者間で情報交換し、情報提供し支援している。 	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けには十分に気をつけ、プライバシーには、配慮しているが、時々配慮にかける部分が見られる。 ・記録等は事務所に保管し、目の届かない場所へ置いている。 	○ 尊敬の心を持ってもらいたい。
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の観察、コミュニケーションから、本人の希望等把握できるようにしている。担当職員を利用したりし希望を聞きだせるように支援している。 ・自己決定促すような言葉掛けをし支援している。 	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の訴え等は、身体、精神状態に合わせ支援しているが、職員の都合を優先しているときもある。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の洋服選びは本人にしてもらい、一部の利用者は行きつけの理容院をつかっている。 ・行事等で出掛ける際もおしゃれに気をつかえるような言葉掛けをしている。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は利用者の希望も取り入れているが、今までの摂取量を参考にしながら立てている。 ・職員も同じ食事を摂り、各々後片付けをしている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者の嗜好品はある程度把握しているが、全てではない。 ・一人ひとりに合わせ買物をし、利用者の好きなときに楽しんでもらっている。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・利用者全員ではないが、パターンがわかるようチェック表等を活用している。 ・誘導時にプライバシーの配慮に欠ける部分みられる。	○	言葉掛けなど工夫していきたい。
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてあるが、いつでも入っていいことは伝えている。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。その時の状況を見ながら日中の昼寝を促したり、一緒に付きそったり安心感を得られるようにしている。薬の服用等も職員全員で話し合い家族に報告し決定している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者一人ひとりの役割を持ってもらっている。 ・利用者の希望にそった楽しみ等を把握し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者、家族と話し合いながら本人での金銭管理してもらい、他事務所で保管をしている。 ・買物も、利用者に支払いをしてもらうよう言葉掛けをしたりし支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は周辺の散歩に出掛けたり、外にでることの好きな利用者は天候が悪くても玄関前で外気浴を楽しんでもらっている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・利用者の行きたい場所等は、全員ではないが把握している。 ・家族からの助言も受けながら探っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・プライバシーに配慮し、内容を知られないようにしている。 ・一部の利用者は電話でのやりとりをしている。	○	手紙等でのやりとりを本人と相談しながら支援していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時は家族、他訪問者が来所された際、言葉掛けをしている。 ・面会時間の設定はしているが、状況に合わせて対応している。 ・宿泊の対応はしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は身体拘束について理解している。 ・やむを得ず行う場合は家族に説明し同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は、いつでも出入りできるよう施錠はしていない。 ・居室も自由に出入りしている。 ・一人で玄関に向かった場合、チャイムで知ることができ、職員同行している。	○	近隣・地域の理解と協力を得られるよう働きかけを行っていききたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・見守りしやすい居間に必ず職員がいるよう配置している。 ・玄関、非常口にチャイムを設置している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・職員で話し合い、薬、洗剤等の保管方法を決めている。 ・利用者の目の届かない場所の保管。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・申し送り会議で事故防止の話し合いをしている。 ・事故報告、ヒヤリハット報告があり、再発防止に努め、事務所に保管してある。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時マニュアルは作成している。 ・全職員が救急救命の講習を受けている。	○	訓練を定期的に行っていききたい。 応急手当の内部研修の定期的実施
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。（夜間想定含む）	○	食料、飲料水等の確保していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのリスクは把握しており、それを家族に手紙や面会時に話している。 リスクに対応できるよう職員会議で話し合っている。 		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> 現病歴、既往歴を把握しており、毎日の観察をし、看護師、医師に相談するようにし、記録を残している。 		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりの薬の概要のファイルがあり把握している。 薬の変更時も全て記録に残して、把握できるようにし、家族への報告をしている。 		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 便秘について理解をしている。その原因をつかむための毎日の観察、チェック表を利用したり、活動量を増やすような言葉掛けをしている。 下剤の活用もしている。 		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 口腔内清潔保持の必要性を理解している。 言葉掛けし清潔にするよう促している。できる方は一人でやってもらっている。 	○	毎食後の口腔ケアを行っていきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 献立はカロリー計算、バランスも考えて立てている。 水分量はチェック表を活用し、把握しそれにもない言葉掛けを工夫し摂取してもらっている。 一人ひとりに合った食事、提供をしている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応マニュアルが作成されている。 ・排泄後の手洗いの徹底、ペーパータオルの使用、清掃時塩素系洗剤の使用。 ・入浴後の消毒をしている。 		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のふきん、まな板等のハイターづけを行っているが、マニュアルはない。 ・食材は毎日配達してもらい、その後も買物に出掛け、新鮮なものを使用している。 	○	マニュアル作成をしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすく入れるように、玄関まわりに花を植えたりし、雰囲気作りはしている。 ・鍵をしていない。 		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居間とキッチンがつながっていて、調理のにおい等で生活感、季節感を取り入れるようにしている。 		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・座席の配置等相性等を考慮し配置している。 ・ソファの利用も言葉掛けし、その時の状況により変えたりしている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入所前に使い慣れた物の持ち込みをするように、 利用者、家族に説明している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・毎日の清掃時の換気、随時の換気は行っ ており、1日2回の温度・湿度チェックを 行い、それに合わせ調節している。 ・湿度調節は、タオルを濡らしたり、き りふきを活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	・ホーム内は、すべてフラットであるが 逆に見守りを重視している。 ・廊下には手すりを設置、洗面台も高 低差をつけている。 ・利用者により車椅子も置いている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	・普段の観察から見極めていて、改善が 必要な場合は会議を開き検討してい る。 ・居室を間違える利用者の戸に目印を つけて、混乱を防いでいる。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動で きるように活かしている	・庭にベンチを置き、日光浴を楽しん だり、畑での野菜作り等も楽しま れている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

安心し、自由で穏やかに過ごせるように支援していて、内外の環境が良いのでフル活用している。